

いわぎん75周年スペシャル

マーラー：交響曲 第2番 ハ短調

「復活」

〈盛岡市民文化ホール開館10周年記念事業〉

指揮：飯森 範親
管弦楽：東京交響楽団
ソプラノ：森 麻季
アルト：寺谷 千枝子
合唱：盛岡第一高等学校音楽部
盛岡第二高等学校音楽部
盛岡第三高等学校音楽部
盛岡北高等学校音楽部
不来方高等学校音楽コース
岩手女子高等学校音楽部
岩手大学合唱団
盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
合唱指揮：佐々木 正利

2007.12/21(金)

午後7時開演

盛岡市民文化ホール 大ホール

主催：(財)盛岡市文化振興事業団
共催：盛岡市、盛岡市教育委員会、岩手日報社、IBC岩手放送
後援：岩手県合唱連盟、岩手県高等学校文化連盟
特別協賛：岩手銀行

„Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr.:2 c-Moll „Aufertehung“ Gus
Nr.:2 c-Moll „Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr.:2 c-M
„Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr.:2 c-Moll „Aufertehun
Sinfonie Nr.:2 c-Moll „Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr
ie Nr.:2 c-Moll „Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr.:2 c-
„Aufertehung“ Gustav Mahler: Sinfonie Nr.:2 c-Moll „Aufertehung“ Gus

■ ■ ■ グスタフ・マーラー(1860~1911)作曲 ■ ■ ■

■ ■ ■ 交響曲 第2番 ハ短調「復活」について ■ ■ ■

1888年、ブダペストの歌劇場の指揮者となっていたマーラーは、交響曲第2番のスケッチにとりかかりましたが、この時期には交響曲第1番の初演や他の仕事もあったため、筆は思うように進められなかったとされています。翌1889年は、マーラーにとって悲劇的な年で、2月18日に父親を失ったのを初めとして、10月11日には母親を、さらに一番下の妹のレオポルディーネも脳腫瘍でこの年に亡くなっています。また、期待した11月の交響曲第1番の初演は大失敗に終わり、マーラーは大きな失望を味わわざるを得なかったようです。ブダペストの歌劇場も新しい劇場支配人との間に諍いが絶えず、1891年には辞職することになってしまいました。

そんな中、用意周到なマーラーは、既にこの時にはハンブルク市立歌劇場の支配人との間で交渉を進めており、同年この歌劇場の首席指揮者として迎えられました。当時、この地を本拠として活躍していた指揮者は、ハンス・フォン・ビューロー(1830~1894)で、マーラーは病身だったビューローの信頼を得て、1892年12月から彼の代役を務めるようになりました。ビューローは、マーラーに「ハンブルク・オペラのピュグマリオン(ギリシャ神話のキプロス島の王)へ — ハンス・フォン・ビューロー」と書かれたオリブ色のリボンをかけた月桂冠を贈るなど、30歳年下のマーラーを高く評価していたようです。ただし、ビューローのマーラーに対する評価は、指揮者としてのものであって、作曲家としてはそれほど高く評価していなかったとも言われています。

1894年2月12日、そのビューローがカイロで亡くなり、葬儀が3月29日にハンブルクで執り行われました。マーラーはこの葬儀に参列しましたが、3年後の1897年に批評家のアルトゥア・ザイドル宛ての手紙で、この時の経験が交響曲第2番の第5楽章に強く影響を与えたことを次のように述べています。

「私は長い間、終楽章に合唱を導入しようという考えを抱いていたが、ベートーヴェンのうわべだけの模倣ととられかねないという懸念から、何度も何度もそれをためらっていた。そんな折、ビューローが亡くなり、私はハンブルクで彼の葬儀に参列した。私が味わった気分、死を考えた気分が私の手を付けていた作品の精神にぴったりとあてはまった。その時にオルガンの壇の上からクロプシュトックの《復活》の合唱が響いてきた。あらゆる創作芸術家が待ち焦がれていた瞬間だった」。

マーラーは葬儀が終わるやいなや、作曲に没頭しましたが、実際に終楽章に用いられたクロプシュトックの詩は、最初の2節のみで、それ以外はマーラーの手が加わっています。そのような状況のもとで、1894年12月18日、総譜の完全な写譜が完成しています。

初演は1895年3月4日、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団によって最初の3楽章のみがなされました。演奏会全体の指揮者はリヒャルト・シュトラウス(1864~1949)だったようですが、この曲については「作曲者指揮による」との断り書きがあり、マーラー自身が指揮したものと見られています。全5楽章の初演は1895年12月13日にやはりベルリンに於いて、マーラーの指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団によってなされました。この全楽章の演奏に際してマーラーは、万全を期するために、かなり早い時期から自費でオーケストラをやとったようです。

また、第4楽章では、マーラーが1892年に完成した歌曲集『子供の不思議な角笛』の歌詞を採用しています。続く交響曲第3番、交響曲第4番も『子供の不思議な角笛』の歌詞を使っていることから、これらは「角笛」3部作として括られることもあります。

■ ■ ■ 第1楽章：アレグロ・マエストーソ ハ短調 4/4拍子 ■ ■ ■

ソナタ形式。「完璧にまじめでしかも荘厳な表現をもって」との表記があります。冒頭、ブルックナー風に、弦のトレモロとともに激しく16分音符で現れる第1主題と、甘美で柔和な第2主題を中心に進められ、最後の葬送行進曲が静かに消え入りそうになったところで、強烈に半音階的に下降してこの楽章を結びます。

マーラー自身は、この楽章は葬式を示すと述べ、さらに「私の第1交響曲での英雄を墓に横たえ、その生涯を曇りのない鏡で、いわば高められた位置から映すのである。同時に、この楽章は、大きな問題を表明している。すなわち、いかなる目的のために汝は生まれてきたかということである。……この解答を私は終楽章で与える」と書いています。

■ ■ ■ 第2楽章：アンダンテ・モデラート 変イ長調 3/8拍子 ■ ■ ■

「きわめてくつろいで、急がずに」の表記があります。明るく伸びやかなレントラー風の音楽で、劇的な第1楽章から一転、メルヘンの世界へと聴き手を誘います。

この楽章について、マーラーは「過去の回想……英雄の過ぎ去った生涯からの純粋で汚れのない太陽の光線」と書いています。

■ ■ ■ 第3楽章：ハ短調 3/8拍子 ■ ■ ■

「おだやかに、流れる動きで」と記され、ティンパニで開始されるこの楽章は、歌曲集『子供の不思議な角笛』の中の「魚に説教するパドヴァの聖アントニウス」の旋律と管弦楽パートを用いて、ユニークなスケルツォを作り出しています。なお「むち」が効果的に使われています。

マーラーがこの楽章に関して記した言葉は、次のとおりです。「前の楽章の物足りないような夢から覚め、再び生活の喧噪のなかに戻ると、人生の絶え間ない流れが恐ろしさをもって君たちに迫ってくることがよくある。それは、ちょうど君たちが外部の暗いところから音楽が聴き取れなくなるような距離で眺めたときの、明るく照らされた舞踏場の踊り手たちが揺れ動くのにも似ている。人生は無感覚で君たちの前に現れ、君たちが嫌悪の叫び声を上げて起きあがることのよくある悪夢にも似ている……」。

■ ■ ■ 第4楽章：《原光》変二長調 4/4拍子 ■ ■ ■

「きわめて荘厳に、しかし簡潔に」。アルト独唱と舞台裏からのコラルに続き、歌曲集『子供の不思議な角笛』の《原光》が歌われ、曲はそのまま嵐のようなフィナーレに続きます。

マーラーは、この楽章について「単純な信仰の壮快な次のような歌が聞こえてくる。私は神のようになり、神のもとへと戻ってゆくであろう」と記しています。

■ ■ ■ 第5楽章：3部から構成されるフィナーレ ■ ■ ■

全曲の約2/5を占め、演奏場所に舞台外も要求している大規模なフィナーレ。3つの部分からなり、第1部では、最後の審判によってひきおこされる死者たちのパニック状況を描きます。第2部も器楽のみで人々の逃げ惑うさまや、救いを求めて絶叫する姿を暗示します。第3部では、いよいよクロブシュトックの《復活》の賛歌が神秘的に歌われます。さらにアルト独唱と、ソプラノとの二重唱を経て、最後にはオルガン、鐘も加わって、壮麗なクライマックスを築いたのち崇高な調べのうちに全曲を結びます。

マーラーはこの楽章について、次のように書いています。「荒野に次のような声が響いてくる。あらゆる人生の終末は来た。……最後の審判の日が近づいている。大地は震え、墓は開き、死者が立ち上がり、行進は永久に進んでゆく。この地上の権力者もつまらぬ者も一王も乞食も一進んでゆく。偉大なる声が響いてくる。啓示のトランペットが叫ぶ。そして恐ろしい静寂のまただ中で、地上の生活の最後のおののく姿を示すかのように、夜鶯を遠くの方で聴く。柔らかに、聖者たちと天上の者たちの合唱が次のように歌う。『復活せよ。復活せよ。汝許されるであろう』そして、神の栄光が現れる。不思議な柔和な光がわれわれの心の奥底に透徹してくる。……すべてが黙し、幸福である。そして、見よ。そこにはなんの裁判もなく、罪ある人も正しい人も、権力も卑屈もなく、罰も報いもない。……愛の万能の感情がわれわれを至福なものへと浄化する」。

Chorus list of Names

「復活」公演祝祭合唱団

Soprano

赤沼 英 (盛岡一高)
阿部 里美
菅野 知佳
熊谷 麻子
高橋 晴美
入月 葉紀
松田 侑理瑛
柳田 祐里
赤坂 新葉 (盛岡二高)
浅沼 理紗
伊東 柰子
小笠原 愛
金澤 彩香
工藤 結花
倉本 成美
佐々木 千夏
千田 理子
中村 ひかる
細川 南望
清口 留佳子
村山 亜紀早
工藤 愛蓮 (盛岡三高)
野口 紋加
長谷川 麻美
藤谷 菜月
阿部 佳織 (盛岡北高)
佐々木 綾子
佐藤 明日香
田頭 渚
橘 寿子
千葉 咲野
對馬 香菜子
中清水 ひとみ
野頭 京
畠山 美咲
八重樫 碧
田中 結香 (不来方高)
小野 家ゆり (岩手大学)
小野 寺真理
半田 伊都子
青柳 奈津子 (盛岡バツハ)
○ 赤塚 温子
阿久津 巴 (岩大/バツハ)
○ 荒田 奈美子 (盛岡バツハ)
大崎 孝子
大嶋 美奈子
大矢 克子
小笠原 香澄
岡野 美映子
岡山 ひかり
尾友 佳子
小原 育世
鹿糠 朋加 (岩大/バツハ)
金成 佳枝
菊地 明日香 (盛岡バツハ)
菊池 節子
熊澤 愛理
斎藤 純子
佐々木 恵利子 (岩大/バツハ)
佐藤 澄江 (盛岡バツハ)
志賀 友加里 (岩大/バツハ)
鈴木 たたえ (盛岡バツハ)
李 沢 有希 (岩大/バツハ)
高橋 知子 (盛岡バツハ)
高橋 はるか
○ 高橋 美織 (岩大/バツハ)
竹下 雪乃
○ 田村 いずみ (盛岡バツハ)
千田 絵未
千田 雅子
千葉 明日香
奈良 めぐみ
成田 和代
三原 佳織

明内 泰詠子
村元 彩夏
矢幅 嘉子
山口 恵利

Alto

大坂 紗也佳 (盛岡一高)
曾根 美都
千葉 綾乃
野中 瑞貴
古舘 智美
及川 菜美子 (盛岡二高)
加藤 朱莉
○ 小濱 和子 (盛二・教諭)
小平 祐佳 (盛岡二高)
小向 智加代
四戸 麻美
白木 澤由希
立花 朱里
長澤 美郷
中山 歩
藤田 紗季
星野 智美
阿部 真奈美 (盛岡三高)
佐藤 志明
角掛 遥
角掛 友香
内記 和歌子
長沼 みさ佳 (盛岡北高)
青木 彩佳
小谷 地恵理
中清水 あゆみ
新田 弥生
沼田 春花
平山 朗子
山下 理恵
小林 由佳 (岩手女子)
杉ノ下 遥香
○ 田村 久美子 (岩女・教諭)
千佐 史恵 (岩手女子)
堀 真沙美
松原 千博
鷺田 真紀子
岩瀬 佳美 (岩手大学)
鎌田 若菜
斎藤 智佳
牧野 起奈
阿部 一葉 (岩大/バツハ)
荒谷 麻衣子 (盛岡バツハ)
○ 在原 泉
伊藤 結香
大亦 敦子
○ 小川 咲美
○ 菊池 葉子
桐原 絹子
今野 早苗
佐々木 温
佐々木 美智子
佐藤 公
佐藤 美彩穂
白井 愛弓
☆ 新宮 央子 (岩大/バツハ)
武田 敬恵 (盛岡バツハ)
多田 藤子
丹野 まり
千葉 ゆつき
原 穂波
平井 良子
村上 殖子
茂木 史
★ 茂木 容子
○ 吉田 智穂
米内 恵里奈
渡辺 しをり

Tenor

井形 優 (盛岡一高)
小野 拓保
木村 祐太
名古屋 謙彦
村上 泰基
村上 輔
渡辺 涼太
大沢 寛 (盛岡北高)
佐々木 優太
主演 大
千葉 凌雅
☆ 宮野 哲美 (盛北・教諭)
小野 寺 光 (不来方高)
小野 友輔
工藤 和真
石村 一志 (岩手大学)
伊藤 勝元 (盛岡バツハ)
太田 頼則
小川 隆弘
柿崎 倫史
勝部 健作 (岩大/バツハ)
◎ 佐々木 幹雄 (盛岡バツハ)
佐藤 賢
佐藤 比佐史 (岩大/バツハ)
武田 宏 (盛岡バツハ)
額洞 勝弘
千葉 雅彦
新山 隆健 (岩大/バツハ)
○ 西野 真史 (盛岡バツハ)
○ 沼田 臣矢 (岩大/バツハ)
三原 正敏 (盛岡バツハ)
目黒 賢哉
○ 吉村 哲

Bass

伊藤 浩平 (盛岡一高)
佐々木 幸太
永田 悦祈
藤原 純平
舞田 真武
遠藤 拓哉 (盛岡北高)
及川 克也
鈴木 佳祐
高橋 雄太
立花 賢
大津 顕裕 (岩手大学)
坂本 寛仁
白井 健太郎
赤塚 貴史 (盛岡バツハ)
稻生 創
◎ 小原 一穂
今野 勝彦
佐藤 和久
高橋 啓
田沢 隆
千田 敬之
中川 郁太郎
平沢 知之
平野 亘 (岩大/バツハ)
○ 藤村 誠毅 (盛岡バツハ)
○ 藤原 広大 (岩大/バツハ)
○ 横山 泉 (盛岡バツハ)
若林 敦盛
渡辺 信之

★ 団長
☆ 副団長
◎ コンサートマスター、コンサートミストレス
○ パートリーダー

[合唱指揮] 佐々木正利

Gustav Mahler: Sinfonie Nr. 2 c-Moll „Auferstehung“

4. Satz: „Urlicht“

Text aus „Des Knaben Wunderhorn“

O Röschen rot!
Der Mensch liegt in größter Not!
Der Mensch liegt in größter Pein!
Je lieber möcht' ich im Himmel sein!

Da kam ich auf einen breiten Weg;
Da kam ein Engelein und wollt' mich abweisen.
Ach nein! Ich ließ mich nicht abweisen!

Ich bin von Gott und will wieder zu Gott!
Der liebe Gott wird mit ein Lichtchen geben,
Wird leuchten mir bis an das ewig' selig' Leben!

5. Satz

Text nach Klopstocks Hymne „Die Auferstehung“

(Chor und Sopran)

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,
Mein Staub, nach kurzer Ruh'.
Unsterblich Leben
Wird, der dich rief, dir geben.

Wieder aufzublüh'n wirst du gesät!
Der Herr der Ernte geht
Und sammelt Garben
Uns ein, die starben.

(Alt)

O glaube, mein Herz, o glaube:
Es geht dir nichts verloren!
Dein ist, ja dein, was du gesehnt.
Dein, was du geliebt, was du gestritten!

(Sopran)

O glaube: Du wardst nicht umsonst geboren.
Hast nicht umsonst gelebt, gelitten!

(Chor und Alt)

Was entstanden ist, das muß vergehen.
Was vergangen, auferstehen!
Hör' auf zu beben!
Bereite dich zu leben!

(Sopran und Alt)

O Schmerz! Du Alldurchdringer!
Dir bin ich entrungen!
O Tod! Du Allbezwinger!
Nun bist du bezwungen!

Mit Flügeln, die ich mir errungen,
In heißem Liebesstreben
Wird' ich entschweben zum Licht,
Zu dem kein Aug' gedungen.

(Chor)

Mit Flügeln, die ich mir errungen,
Werde ich entschweben.
Sterben werd' ich, um zu leben!

(Chor, Sopran und Alt)

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,
Mein Herz, in einem Nu.
Was du geschlagen,
Zu Gott wird es dich tragen.

『復活』

第4楽章:『源光』

『子供の不思議な角笛』より

おお 真紅のバラよ!
人間はこの上ない苦しみの中にあります!
人間はこの上ない痛みの中にあります!
それよりもわたしは天上にいたいのです!

わたしは広い道へとやって来ました、
そこに天使が来て、私を追い返そうとしました。
ああ それでも! わたしは引き下がりませんでした!

わたしは神のもとから来てまた神のもとへ戻ります!
愛する神が小さな光を授け、
わたしを永遠の幸福な人生へと照らしてくれるでしょう!

第5楽章

クロプシュトックの賛美歌『復活』にマーラーが加筆したテキスト

(合唱とソプラノ独唱)

復活する、そう おまえは復活する、
わたしの塵よ、わずかな慰いの後に。
死を迎えることの無い命を
おまえを呼んだ方が、おまえに与えてくれるだろう。

再び花咲くためにおまえは蒔かれる!
刈り入れの主は行き
わたしたち死んだ人々の束を
拾い集める。

(アルト独唱)

おお 信じなさい、わたしの心よ、信じなさい、
あなたは何一つ失わないのです!
いまやあなたのものです、あなたが憧れてきたものは、
あなたのものです、あなたが愛し、求めて争ってきたものは!

(ソプラノ独唱)

おお 信じなさい、あなたはいたずらに生まれてきたのではありません。
いたずらに生き、苦しんだのではありません!

(合唱とアルト独唱)

生まれてきたものは、必ず滅び去らなければならない。
しかし滅び去ったものは、必ず復活する!
震えおののくのをやめなさい!
生きるために準備するのです!

(ソプラノとアルト独唱)

おお 痛みよ! すべてを貫くものよ!
あなたからわたしは逃れました!
おお 死よ! すべてを征服するものよ!
いまや あなたが征服させられたのです!

勝ち取った翼をもって
熱く愛に励みながら
わたしは光のもとへと飛んでゆくでしょう、
誰の眼も届かない所へと。

(合唱)

勝ち取った翼をもって
わたしは飛んでゆくだろう。
わたしは生きるために死ぬのだ!

(合唱とソプラノ、アルト独唱)

復活する、そう おまえは復活するのだ、
わたしの心よ、一瞬のうちに。
おまえが打ち鳴らしてきたものが、
神のもとへおまえを運ぶだろう。



東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

1946年創立。音楽監督にユベール・スターン、桂冠指揮者に秋山和慶、常任指揮者に大友直人、正指揮者に飯森範親を擁する。活動の特色の一つに邦人作品を含む現代音楽の初演があり、これまでに文部大臣賞、音楽之友社賞、京都音楽賞大賞、毎日芸術賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞など数々の賞を受賞している。

文化庁からは日本の音楽界を牽引していると認められた芸術団体重点支援事業に指定されている。新国立劇場においてもオペラ・バレエ公演を担当。新潟市とは準フランチャイズ契約を結び、99年から定期演奏会や特別演奏会を開催。04年7月からは川崎市のフランチャイズ・オーケストラとして、ミューザ川崎シンフォニーホールで定期演奏会をスタートさせ、活動の場を拡げている。教育面でも日本初の「こども定期演奏会」を行い、注目を集めている。

CDはTOKYO SYMPHONYレーベルで、ベートーヴェン「第9」、ブルックナー「交響曲第8番」、モーツァルト「交響曲第29番、39番他」を発売している。



飯森範親 (指揮)
Norichika Iimori, Conductor

桐朋学園大学卒業。ベルリンとバイエルンで研鑽を積む。1994年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、大阪・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。海外ではフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、プラハ響、モスクワ放送響、ホノルル響など世界的なオーケストラを指揮。

01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽総監督に就任、日本人指揮者とドイツのオーケストラの組み合わせとしては史上初の快挙となる「ベートーヴェン交響曲全曲」のCDをリリースした。05年「渡邊暁雄音楽基金音楽賞」を受賞。さらに東京交響楽団定期演奏会におけるヤナーチェク「マクロプロス家の秘事」をはじめとする、近現代作品や日本人作品の初演・再演に対する業績により、06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度 中島健蔵音楽賞を相次いで受賞した。

現在、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)、山形交響楽団音楽監督、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、オペラハウス管弦楽団名誉指揮者。



森 麻季 (ソプラノ)
Maki Mori, Soprano

東京芸術大学及び大学院独唱専攻修了。文化庁オペラ研修所修了後、文化庁芸術家在外研修員としてミラノのヴェルティ国立音楽院へ。その後、ミュンヘン国立音楽大学大学院に留学中、ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンテストを始め、数多くの国際コンクール受賞を重ねる。

ワシントン国立歌劇場でアメリカ・デビュー以来、ワシントンとロサンゼルス・オペラで、ドミンゴ、フォン・シュターテ、R.アラニーヤ、ケント・ナガノ、J.アンダーソン、W.ブレンデル、E.オプラスツォワと共演し絶賛を博す。小澤征爾、チョン・ミョンフン、W.アッシュケナージ、G.ベルティニ、P.ヤルヴィをはじめとする指揮者や、ウィーン・フィルのメンバー、ミュンヘン・フィル、ゲヴァントハウス管など海外のオーケストラとの共演も数多く、コロラトゥーラの類稀なる技術と透明感のある美声、深い音楽性と華のある容姿で各方面から絶賛を浴び、まさしく日本を代表する国際的なソプラノ歌手としてTV、新聞などメディアでも注目を集めている。

ソロの録音としてカーネギー・ホールでのリサイタルを収録した『あなたがそばにいたら』『愛しい友よ』(avex-CLASSICS)、DVDはヴェネツィアでのゴッダンのオペラが発売。07年にはドレスデン国立歌劇場でR.シュトラウス「ばらの騎士」ゾフィー役でデビュー予定。



寺谷千枝子 (アルト)
Chieko Teratani, Alto

東京芸術大学卒、同大学院修了。ハンブルク国立音楽大学声楽科、オペラ科卒業。在学中、メスフィールド賞を受賞。1980年、オランダのセルトヘンボス国際声楽コンクール第2位。81年ドイツのプレーマーハーフェン歌劇場とソロ専属契約を結び、「ばらの騎士」のオクタヴィアンでデビュー。次いで83年からはボン歌劇場とソロ専属契約を結び、本格的な活躍を展開する。

90年より拠点をハンブルクに移し、ハンブルク、フランクフルト、プレーメンの各国立歌劇場、フライブルク市立歌劇場などドイツを中心に、フランス、ストラスブールのライン・オペラ、モンペリエ歌劇場、オーストリアのインスブルック歌劇場等、オーケストラではハンブルク響、ケルン・フィルハーモニーほかヨーロッパ各地で客演。90年にはニューヨークでアメリカ・デビューを果たす。

日本でも、E.インバル、C.デュトワ、J.フルネ、M.コルボ、G.ベルティニ、G.ボッセ、小澤征爾、若杉弘、大野和士、大植英次などと言った著名指揮者のもと数々のステージに迎えられ、ヨーロッパでの名声を裏付ける実力を披露。「危なげなく磨かれた声」、「信頼性の高い表現」等その役作りと音楽の読みの的確さ、安定した歌唱は、わが国を代表するメゾ・ソプラノとして常に高い評価と信頼を得ている。